



見沼小だより

平成28年度第11号

平成29年3月1日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」



「必ず誰かの役に立っている」

校長 大澤 淳

桃の節句の季節になりました。といっても本来は旧暦の時期をさすらしく、まだ桃の花はつぼみのようですが、日差しの温かさは、まさに春を感じさせます。陽光のなか、3月3日にはひな祭りを挙げる家庭もあろうかと思えます。

学校もいよいよ今年度最後の月。新旧が入れ替わる別れの季節となりました。本年度は64名の6年生が本校を巣立って行きます。6年間で学んできたこと、忘れられない思い出を大切にしながら大きく羽ばたいてほしいと思います。あわせて、見沼小のために貢献してきた貴重な経験を、学校のために後輩たちにしっかりと伝えていってほしいと考えています。

先日、新しい通学班での一斉下校がありました。新学期を迎えるに当たり、6年生の班長さんから新班長さんへの引き継ぎが行われ、その日から6年生が卒業しても大丈夫なように、新しい班で下校しました。同様に、いままで学校の行事があると6年生が準備や片づけをしてくれていましたが、今月末の卒業式では、5年生がイスを並べたり、掃除をしたりと準備を担当します。今まで6年生が行っていた学校を支える裏方の仕事を引き継ぎます。毎年繰り返されることではありますが、昨年、感じたことがありました。このように6年生からすべての仕事を引き継いで、卒業式で6年生が巣立った翌日には、5年生は今までと少し違った顔付きになっていたのです。きっと、卒業式準備という裏方の仕事をし、学校行事を支えているという気持ちで、6年生の卒業を契機に、最上級生への自覚と責任感へと結びつき、意識が高められたのだと感じました。

昨年あたりからでしょうか、「世界は誰かの仕事でできている」というフレーズでCMが放映されています。観るたびに何か心を動かされ考えさせられます。職業としての仕事はもちろん、家庭の仕事、学術やスポーツの功績などもみな、大きな仕事です。どんな仕事も決して楽なものではなく、みんな一生懸命に努力を続けています。その仕事があれば世の中が動かなかつたり、家庭を支える源だったり、未来への希望や勇気をくれる仕事だったり、「必ず誰かの役に立っている」ことをあらためて感じさせてくれて、すごく励まされる気がしました。

5年生が6年生から仕事を引き継ぐこと、それは仕事を任されることです。「立場が人を育てる」といわれていますが、仕事を任せることでそれぞれの子が自信を深め、達成感を味わい、さらに向上心へとつなげてくれると素晴らしいと考えています。また、学校の仕事をする中で、学校を支え貢献しているのだという気持ちを高め、さらに考えを進めて、世の中のすべての仕事・職業が必要で、それぞれが社会を支え合い、皆が助け合っているのだという職業観が育っていくように願っています。

最後になりますが、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動およびPTA活動等に多大なるご支援・ご協力を頂きましてありがとうございました。教職員一同、心より感謝申し上げます。年度が改まりましても、引き続き、見沼小学校の子どもたちのために、ご支援いただきますようお願い申し上げます。今年度も1年間、本当にありがとうございました。